

日本語教育と就職支援の連携

袴田麻里・鈴木加奈子（静岡大学）

hakamata.mari@shizuoka.ac.jp

suzuki.kanako@shizuoka.ac.jp

【要約】

静岡県は、高等教育機関に在籍する留学生数は 900 名に満たないが、企業の海外での事業展開や海外との取引業務拡大で外国人採用ニーズが高いことを受け、留学生の就職支援イベントやセミナー等が盛んである。しかし、必ずしも留学生の参加率が高いわけではない。その対策として、静岡大学を中心に試行している A. 学内で実施、B. 留学生科目と連携、C. 実施機関が連携し事業日程を調整、を報告する。

1. はじめに

文部科学省は、外国人材の日本企業への就職の拡大を目指し、各大学が自治体や産業界と連携し、外国人留学生の国内就職に必要なスキルである「日本語能力」「日本での企業文化等キャリア教育」「中長期インターンシップ」を一体として学ぶ環境を創設する取組支援を始めた。2017 年度からは、外国人留学生の卒業後における国内定着を促進することを主目的に、留学生就職促進プログラムを実施している（最終年度は 2021 年度まで：5 年間の時限プログラム）。

静岡県では、公益財団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムが文部科学省の採択を受け、日本国内に本拠を持つ企業等への就職を希望する静岡県内で学ぶ外国人留学生のための教育と支援を促進するために、2017 年度より「ふじのくに留学生就職促進プログラム（SCDP）」を開始した。このプログラムの推進によって、静岡大学をはじめとする県内大学等に留学中の優秀な外国人材の日本国内、とくに静岡県内の企業等への就職促進を目指す。本稿では、静岡県における就職支援の現状と課題を概観し、日本語教育との連携によって留学生就職支援を促進する試みを報告する。

2. 静岡県における留学生就職支援

2. 1 静岡県内で学ぶ留学生

静岡県には 22 の高等教育機関（大学 14、短期大学 6、大学院大学 1、工業高等専門学校 1）があり、864 名の留学生が在籍している（2018 年 5 月現在）。95%がアジア出身で、特に中国が 401 名（46.4%）、ベトナムが 111 名（12.8%）と在籍者が多い。

静岡県庁大学課によれば、卒業生の日本残留率は概ね 6 割程度、日本での就職者の割合は、2009 年度には 2 割未満だったが、その後徐々にその比率を上げ、2015 年度には 3 割を超えるまでに上昇した。

2. 2 静岡県内の留学生就職支援

静岡県は、県内留学生への調査・県内企業への調査（静岡県留学生等交流推進協議会（2008, 2009）、静岡総合研究機構（2009））を実施し、2009 年から留学生の就職支援を行ってきた。静岡県国際経済振興会（SIBA）は、県から委託を受け、毎年「グローバル人材&静岡県企業交流会」を開催している（3 会

場（静岡・浜松・三島）、2017年実績：留学生参加91名、参加企業45社）。また、同会の留学生インターンシップ・就職マッチング事業には、12名がインターンシップに参加し、3名が正社員として内定した（2017年実績）。静岡県国際交流協会（SIR）も県から委託を受け、「留学生就職支援講座」（県中部3回、西部2回開講、同：31名参加）と、企業見学会（夏2社、春2社を訪問。同：23名が参加）を継続して実施している。浜松市は、これまで定住外国人の就職支援を主に行ってきたが、2015年から外国人留学生を対象とする支援を開始、浜松国際交流協会（HICE）へ業務を委託し、「留学生と企業との交流会」（同：留学生参加15名、参加企業8社）を実施してきた。

このような実績に加え、ふじのくに留学生就職促進プログラムの企画が始まり、さまざまな機関により計画されている2018年度の留学生就職支援イベントは、表1の通りである。この他にも、就職支援企業のイベントや、大学でのキャリア科目や就職講座などが実施されている。900名に満たない県内留学生に対する就職支援は、かなり充実していると言ってよいだろう。

表1：2018年度の主な留学生就職支援イベント

月	6月				7月				8月
イベント名	留学生インターンシップマッチング会	留学生就職支援講座「静岡県の経済・産業について」	企業交流会（浜松）	プレゼンテーション講座（浜松）	外国人留学生のための日本企業就職セミナー	企業交流会（静岡）	プレゼンテーション講座（静岡）	留学生就職支援講座「静岡県の魅力・地域が求める人材とは」	ふじのくに留学生就職促進プログラム集中セミナーⅠ
主催、他	主催：浜松市	主催：(公財)静岡県国際交流協会(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム	主催：(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム 実施：(公社)静岡県国際経済振興会	主催：(公財)静岡県国際交流協会(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム	主催：浜松市・静岡大学 主管：(公財)浜松国際交流協会	主催：(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム 実施：(公社)静岡県国際経済振興会	主催：(公財)静岡県国際交流協会(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム	主催：(公財)静岡県国際交流協会(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム	主催：ふじのくに留学生就職促進プログラム
8月	10月		11月			12月		2月	
留学生就職支援講座「日本語の資格取得を目指そう！」	留学生インターンシップ報告会	留学生OB・OGとの交流会	企業交流会（三島）	ふじのくに留学生就職促進プログラム説明会	留学生のための県内企業訪問バスツアー	国際交流討論会「話っ、輪っ、和っ！」	企業交流会（浜松）	ふじのくに留学生就職促進プログラム集中セミナーⅡ	留学生のための県内企業訪問バスツアー
主催：(公財)静岡県国際交流協会(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム	主催：浜松市	主催：(公財)静岡県国際交流協会(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム	主催：(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム 実施：(公社)静岡県国際経済振興会	主催：ふじのくに留学生就職促進プログラム	主催：(公財)静岡県国際交流協会(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム	主催：静岡県留学生等交流推進協議会	主催：(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム 実施：(公社)静岡県国際経済振興会	主催：ふじのくに留学生就職促進プログラム	主催：(公財)静岡県国際交流協会(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム

（主たる実施団体：黄＝SCDP、青＝SIBA、緑＝SIR、オレンジ＝浜松市、グレー＝静岡県留学生等交流推進協議会）

2.3 留学生就職支援の課題

静岡県は、企業説明会や就活セミナー開催など留学生からの要望を受け、県をあげて留学生の就職支援を行ってきたことによって、留学生の日本国内就職率は、緩やかではあるが順調に上昇している。多くの就職支援が実を結んだ結果と言えるが、最近では就職に関連するイベントや企業説明会などを開催しても、想定したほど留学生が参加しないという事態がしばしば起こっている。

これは、まず静岡県の地理的な要因が影響を与えていると思われる。静岡県は東西に広いため、移動に時間や交通費がかかり、留学生が参加をためらう一因となる。SIRは、浜松市在住留学生が静岡市での講座に参加する場合には、新幹線の特急料金支給を試行した（2018年度）。実際、この措置によって、5～10名ほど浜松市から参加があったが、来年度以降も同様の措置を継続されるかは未定である。また、864名の留学生は、県西部、県中部、県東部に立地する大学・キャンパスに分かれて在籍している。大学が異なれば年間予定が異なり、所属学部・学科が異なれば時間割や忙しさが異なり、就職活動に該当する学年の留学生に共通して都合のよい日時はない。そのため、土日や長期休暇中に設定するこ

とが多くなり、アルバイトを休めない、帰省してしまう、などの理由で参加しない場合もある。

次に、情報提供の問題である。イベントやセミナーの実施機関・団体は、これまで各大学の留学生担当部署へチラシなどを送付して周知を依頼したり、Web やソーシャルメディアを利用して情報提供を行ってきたが、イベントや説明会の開催を知らなかったという声は多い。

一方で、情報が得られても参加しない場合がある。一つ目は、自分にとってどれが適切なイベントなのかが判断できない場合である。多種多様なイベントや説明会があっても、それらの目的や内容を理解していないために、判断ができないのだ。判断できないために参加しない場合もあるが、闇雲に参加していたずらに自信をなくすケースもある。

もう一つは、企業説明会の参加企業に知っている企業がない場合である。留学生は大企業・有名企業志向が強い。新日本有限責任監査法人(2015)によれば「企業の規模を気にしない」留学生は23.2%にすぎない(p.39)。母国で知られている企業のみを志望する極端なケースもあるが、企業研究の方法を知らないため、自分と合う企業を調べることができないのである。

また、情報を得ても単に忘れてしまったり、申し込んでもアルバイトなどを優先させたりする場合もある。日本で就職することについて、意識が低いのだと思われる。

就職活動に役立つ企画が多くあっても、留学生が参加しなければ意味がない。これらの要因をどう取り除くかが、留学生の就職支援のカギである。

3. 留学生科目と就職支援との連携

3. 1 課題への対策案

2. 3で述べた要因への対応として、A. 学内で実施、B. 留学生科目と連携、C. 実施機関が連携し事業日程を調整、の3点を挙げたい(表2)。

表2：留学生の参加が少ない要因と対策案

参加が少ない要因		対策案
① 時間的、物理的な要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内各地の留学生の移動が難しい ・ 各大学、学部・学科間の予定合わせが難しい 	A. 学内で実施
② 周知方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周知方法が適切ではない／効果的ではない 	B. 留学生科目と連携
③ 留学生の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にとって必要なイベントを選べない ・ 企業を知らない ・ 忘れる、アルバイトなどを優先する 	C. 実施機関が連携し事業日程を調整

まず、A. 学内で実施することにより、移動に時間や交通費がかからない。授業の合間に参加することも可能になる。また、時間割や、学生の専攻や身分、国籍といった各大学・キャンパスの実情に合わせた内容を盛り込んで企画できる。例えば、理系キャンパスに理系の学生を採用したい企業を集めることができるのだ。加えて、その大学・学部に合わせて方法で周知することが可能であろうことから、企業説明会や就活セミナーがあることを知らないというケースが減るとと思われる。

B. 日本語科目などの留学生科目と、就職支援のイベントやセミナーなどとの連携は、課題解決に最も効果的であると考えられる。授業15回のうちの1回、または2回を就職支援のイベントやセミナーなどに当てるのである。これによって、まず特別な周知なく留学生を確実に参加させることができる。ま

た、対象となる学年を特定し、その学年に必要な内容を提供できる。就職をテーマにした教室活動として企業研究を試みたり企業説明を聞いたりすることは、日本語学習の動機付けにもなると思われる。

C. 実施機関が連携し、事業日程や内容を調整することも非常に重要である。この数年、留学生を対象とする就職支援イベントや企業説明会が数多く行われるようになってきているが、日程や内容が重なっている場合がある。静岡県のように在籍する留学生が少ない場合、参加者の取り合いになり、どの企画も参加者が少ないという事態が起こってしまうのだ。

次節以降、A. B. C. について、静岡大学を中心に SCDP での取り組みを報告する。

3. 2 学内で実施

理系で日本語力が低いという属性を持つ留学生に、インターンシップや日本での就職の情報を提供すること、また理系学生の採用希望を持つ企業に理系留学生と交流する機会を提供することを目的に、「グローバル人材&静岡県企業交流会(以下、交流会)」を2015年から静岡大学浜松キャンパスで実施している。インターンシップの申し込み、行政書士による在留資格等の相談コーナーも付随している。2016年からは、留学生だけでなく海外留学経験や語学に自信のある日本人学生も対象にした。2018年度交流会の参加者は、留学生58(静岡大学生は56)、日本人学生14(静岡大学生は11)、参加企業は20社であった。

静岡大学浜松キャンパスには工学と情報学の学士課程、修士課程、博士課程があり、在籍する学生は主として理系である。静岡大学は2006年に博士課程で、また2015年に理系修士課程で英語のみで学位取得が可能になった。その結果、現在、浜松キャンパスに在籍する留学生の半数以上は、日本語力が著しく低い。彼らは日本語力が低いため、インターンシップはもちろんだが、留学生向けに開催されるセミナーや企業説明会であっても参加が難しい。英語によるインターンシップ説明会や企業説明会、また英語でのコミュニケーションを可とする受け入れ企業の開拓が必要である。

交流会は、静岡県がSIBAに業務委託し、県中部で2009年、県西部は2010年、県東部は2011年から開催されてきた。SIBAの会員企業は製造業が多く、海外での事業展開や海外との取引業務拡大で、理工系外国人の採用ニーズが高い。交流会は県の事業であり、特定の大学での実施は、大学間の不公平を生じさせる恐れがあるが、理系の留学生は県西部、特に静岡大学浜松キャンパスに7~8割が在籍していることから、開催が了承された。

2018年度、浜松キャンパスでの交流会では、まず大学の事業として2018年10月入学の留学生約20名に対してインターンシップ説明会(英語)を行った。続けて、静岡大学教員が浜松キャンパスに在籍する留学生の属性(大学院生、日本語力が低い、東南アジア出身者が多い、など)や傾向(研究内容と関連のある職につきたい、日本滞在年数は未定、など)を企業へ説明したところ、参加企業20社のうち大半がその後の企業説明や交流会で、英語で情報提供をしてくださった。

この仕立てにより、多くのメリットがあった。留学生は、インターンシップ説明会に続きマッチング会に参加できた。大学にとってはマッチング会参加企業を集める作業がなくなり、留学生への指導に注力できた。SIBAには、企業ニーズに合致した参加学生を集めることが容易となることがメリットであった。企業にとっては、留学生に関する情報を大学教員から効率的に得られ、また採用したい分野の留学生と直接面談できるというメリットがあった。

また参加企業に対するアンケート調査から、交流会への参加が留学生への関心を高めたことがわかった(表3)。2018年度の参加留学生は日本語力が低い大学院生が多かったが、「日本語レベル・学習

状況の理解が深まった」「採用について前向きになった」「インターンシップ受入に前向きになった」という回答が多いことは注目に値する。加えて、「採用方法に工夫・変更の必要性を感じた」企業が 20 社中 14 社あることから、今後も英語での情報提供や研究内容との整合性に関する説明にも取り組んでいただける可能性が高まったと言える。

表 3：浜松キャンパスでの交流会参加企業へのアンケート結果（20 社）

	当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	無回答
(1) 留学状況への理解が深まった	5	8	3	0	4
(2) 就職希望・状況への理解が深まった	4	9	3	0	4
(3) 日本語レベル・学習状況への理解が深まった	3	10	3	0	4
(4) 採用について前向きになった	7	8	0	0	5
(5) インターンシップ受入に前向きになった	5	7	4	0	4
(6) 採用方法に工夫・変更の必要性を感じた	7	7	2	0	4
(7) 今までと違う属性の留学生採用を検討したい	4	7	3	2	4

3.3 留学生科目と連携

静岡県留学生等交流推進協議会は、2008 年の調査で留学生が日本で就職するためには、日本語力の向上が重要であること、また 2009 年の調査では特に「業務上必要な言葉」「説明力」「敬語」「議事録作成」が重要であることを報告している。このうち、「業務上必要な言葉」は業務の内容に左右されるため、大学在学中に対応することは難しいが、「敬語」「説明力」「議事録作成」は十分に高められる技能である。特に「説明力」「議事録作成」に必要な日本語力は、アカデミック・ジャパニーズが目標とする日本語力でもあり、大学生活でこそ向上させられる技能だと思われる。

また、同調査は、留学生には日本語力の向上に加え「日本の就職活動と、その正しい理解」「十分な企業研究、自己分析」「自分がしたいことの明確化」が不可欠だと報告している。つまり、留学生は、日本社会・企業の考え方の理解と同時に、就職に関する前提が母国とは異なること、日本、母国、第三国の選択肢があることに気づき、それぞれのメリット・デメリットを理解した上で、日本でキャリアをスタートさせるのかを考える（キャリアデザイン）必要がある。

大学は、2018 年度から「キャリアデザイン」を必修化した。日本人学生が日本企業に就職することを前提とした内容が主で、働くことに対する意識が異なる社会出身者（留学生）への配慮はない。しかも、留学生は外国語で（日本語）受講しなければならない。つまり、必修科目である「キャリアデザイン」受講のために、あらかじめ日本での就職について関心を持って情報を収集し、アイデアを固め、それを適切な日本語で効果的に表現できるようにならなければならないのである。

このような留学生特有の事情を考慮すると、留学生だけが履修する日本語科目で、キャリアデザイン以前の意識付けと日本語教育を行うことが効果的である。その上で、必修科目「キャリアデザイン」を受講すれば、日本人学生とともに考えることができ、受講効果が上がる。日本人学生の意識向上にも役立つ。

現在、静岡大学では留学生を対象とした科目が、年間、静岡キャンパスで 49 科目、浜松キャンパスで 41 科目開講されている。SCDP 開始以降、就職関連のセミナーや講座と連携させた科目は、表 4 の通

りである。

表 4：就職関連の催しと留学生科目

就職関連の催し	科目名	
	浜松キャンパス	静岡キャンパス
・留学生就職支援講座「静岡県の産業について」(SIR)	日本事情 [学部 1 年前期]	日本語 V [学部 2 年前期]
・留学生就職支援講座「静岡県企業の魅力・地域が求める人材とは」(SIR)	日本語 V [学部 2 年前期]	
・グローバル人材&静岡県企業交流会 (SIBA)	日本語 4B-S [院生前期]	日本語 V [学部 2 年前期] 日本語 VI [学部 2 年後期]
・留学生就職支援講座「県内企業訪問バスツアー」(SIR)	日本語 VI [学部 2 年後期]	日本語 VI [学部 2 年後期]
・プレゼンテーション講座 (SIR)	日本語 4B-S [院生前期]	日本語 V [学部 2 年前期]
・留学生と企業との交流会 (HICE)	日本語 VI [学部 2 年後期]	
・外国人留学生のための日本企業就職セミナー (浜松市)	日本語 4B-S [院生前期]	
・OBOG 交流会 (SIR)		日本語 VI [学部 2 年後期]

就職関連の催しを日本語科目と連携させる場合、授業日程に合わせることができれば、内容にふさわしい学年の留学生を確実に就職関連の催しに参加させることができる。また、留学生にとっては単位修得の一部となるというメリットもある。日本語教育の面からは、PBL の手法を用いて事前準備を授業活動に取り込むことができ、日本語教育とキャリア教育を並行させることができる（袴田 2012, 印刷中）。

この方策の問題点は二点ある。一点目は学習項目を就職関連の事柄に偏らせてしまうと、日本での就職に関心のない学生（交換留学生、博士進学希望者など）には不適切となることだ。就職に特化せず大きく「進路」をテーマとして学習項目を選定する、または日本事情として履修させるなど、工夫が必要である。二点目は、特定の大学の授業であるため、県や市の催しであるにもかかわらず、他大学の留学生の参加が極めて困難であることだ。静岡大学浜松キャンパスは、県西部の留学生の 8～9 割が在籍しているため、このような形での実施が可能だが、県中部・東部は突出した在籍数を持つ大学がない。そのため、静岡キャンパスで授業と連携させても、催しは土曜日等授業日以外に学外で開催せざるをえず、必ずしも授業履修者全員が参加できるとは限らない。日本語科目と連携させる利点を生かしつつ、参加機会の公平性を保つ方策が必要である。

3. 4 実施機関の連携

3. 1 で示した 3 つの対策案のうち最も重要な案は、実施機関が連携し、事業日程や内容を調整することである。静岡県では、留学生を対象とした就職支援事業は 2009 年から始まっており、新規事業と合わせ相当数の機会を提供できているものの、情報の集約を含め、十分な整理がなされていない。県全体として日程や内容の重なりを調整し、事業を計画しなければならない。その上で、どの学年で、

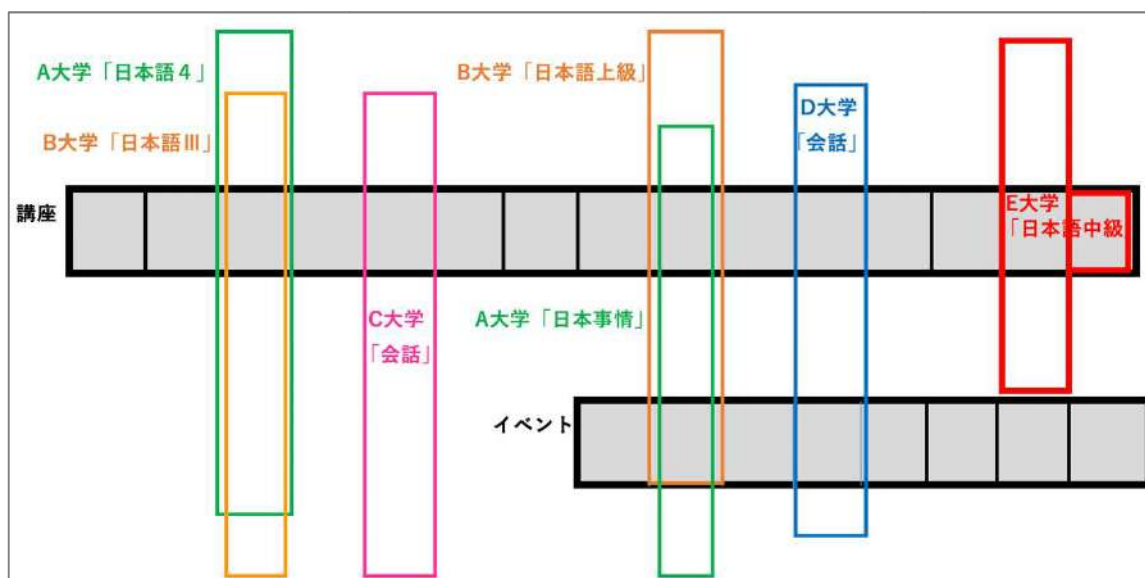
どの内容の催しに参加するのかを明示し、留学生が効果的に参加・受講できるよう促すことが不可欠である。

静岡県は、全留学生数が 900 名に満たないにもかかわらず、自治体や各種団体、就職支援企業によるイベントやセミナーが多い。各大学でも、それぞれイベントや講座を展開している。その結果、留学生はどれに参加したらいいか分かりにくい状況に陥り、主催者側は、限られた数の留学生を取り合う事態が生じている。

幸い、2017 年度に留学生就職促進プログラムの採択を受けて SCDP が発足したことで、これまでの各種事業を整理し、一つのカリキュラムとして組み直す試みが始まった（図 1）。SCDP 受講生すべてに共通のプログラム「キャリア・日本語教育(仮)」を開講し、修了を目指す受講生には必修セミナー・イベントへの参加を義務付ける（図 1、黒枠）。その一部は参画している各大学の授業と連携させ（図 1、緑・オレンジ・ピンク・青・赤の枠）、受講者の移動や交通費の負担を軽減する。また、授業の一環であることで心的負担も軽減させられる。共通プログラムやイベントの一部に単発で参加することは可能であるが、共通プログラム「キャリア・日本語教育」の受講者とはならない。

3. 3. で述べたように、就職に関連するイベントやセミナーなどを特定の大学で開催したり、各大学で開講されている日本語科目等と連携させたりすることで、参加留学生を確保できる。静岡大学は 2017 年度から日本語科目等と連携を始めたため、SCDP は静岡大学から 126 名の受講者を得た（受講者総数は 134 名）。また、適切な学年の学生に適切な内容を提供することで教育効果も期待できる。各大学の特色や強みを生かしつつ、参画している各大学に共通して必要な内容を盛り込めるよう、今後の連携強化が必須となる。

図 1 : SCDP 共通プログラム (案)



共通プログラムに、どの段階で、あるいは、どの段階までに「日本語能力試験N1 相当の日本語力の習得」「インターンシップへの参加」「学内外の就職関連ガイダンス・セミナーへの参加」等をするべきかという目安を加えると、留学生に特化した就職までのモデルプランとなる（図 2）。

図 2 は、各大学で開講されている日本語関連科目、キャリア関連科目、インターンシップ関連科目を履修しつつ、SCDP 共通プログラム、企業交流会、インターンシップマッチング会等に参加し、段階的に就業力を高めていくためのモデルプランである。4 月入学の学士生をはじめ、10 月入学の学士生、

また英語コースの修士生等、それぞれに応じた就職までのモデルプランを明示することで、留学生自身が自律的に取り組めるように意識付けをすることができる。

このようなプランを連携大学、実施団体が共有して認識することにより、県全体として内容の重なりを調整しながら事業が計画できるようにし、留学生に効果的に参加・受講できるよう促すことを目指す。

図2：SCDPモデルプラン（4月入学学士）（案）



4. まとめと今後の課題

静岡県は、高等教育機関に在籍する留学生数は900名に満たないが、企業の海外での事業展開や海外との取引業務拡大で外国人採用ニーズが高いことを受け、留学生の就職支援が盛んである。しかしながら、様々な支援や取り組みが乱立し、日程や内容が重なったり、留学生がどのイベントに参加したらいいか判断に迷う事態が生じている。これは、①静岡県の地理的な要因、②周知方法、③留学生の意識に起因するものと考え、その対策として、すでに実施しているA.学内で実施、B.留学生科目と連携、また現在計画しているC.実施機関が連携し事業日程を調整、の3点を概観した。今後は、現在一律に扱っている事業に参加の目安となるような順序・順位付けをし、分かりやすく情報を発信すること、早い段階から自分のキャリアについて考える機会を提供していくことが重要だと考え（白井他、印刷中）、特にCに注力する予定である。

ふじのくに留学生就職促進プログラム(SCDP)は2017年に発足したばかりであるが、多くの外国人留学生は日本人学生と同等、またはそれ以上の資質を持っている。日本人と同じ採用枠でも求職活動ができれば、進路の幅が広がるはずだ。

参考文献

- 静岡総合研究機構（2009）『留学生の生活実態及び企業の留学生採用に関するヒアリング調査報告書』
- 静岡県留学生等交流推進協議会（2008）「静岡県における留学生の就職意識と企業の留学生採用意識に関する

調査結果』『話っ、輪っ、和っ！2008 報告書』静岡県留学生等交流推進協議会、pp.72-152

静岡県留学生等交流推進協議会(2009)「留学生の日本企業への就職・日本企業での活躍を促すために」『話っ、輪っ、和っ！2009 報告書』静岡県留学生等交流推進協議会、pp.59-148

白井靖人、大八木智一、鈴木加奈子、野口直子（印刷中）「ふじのくに留学生就職促進プログラム(SCDP)」『静岡大学国際連携推進機構紀要』第1号，静岡大学国際連携推進機構

新日本有限責任監査法人（2015）『平成26年度産業経済研究委託事業（外国人留学生の就職及び定着状況に関する調査）報告書』

袴田麻里（2012）「進路の幅を広げるために」『静岡大学国際交流センター紀要』第6号，静岡大学国際交流センター、pp.39-52

袴田麻里（印刷中）「就職できる日本語」『静岡大学国際連携推進機構紀要』第1号，静岡大学国際連携推進機構